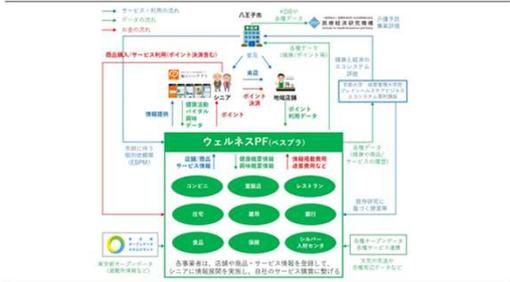


産官学連携の持続可能な健康施策「ウェルネスプラットフォーム」

東京都八王子市 × 株式会社ベスブラ

取組概要

高齢化の進展に伴い、今後増える医療費や介護費を抑える為に高齢者向け「健康アプリ」を提供し、さらに健康非関心層も取り込む為に「健康ポイント」も組み合わせた健康サービスを八王子市民へ提供した。本健康施策を持続可能にする為に「高齢者」と「事業者」を繋ぐ『ウェルネスプラットフォーム』を開発し、健康ポイントの原資を事業者から徴収および自治体がデータ分析ができる仕組みを東京都八王子市にて実装した。



健康施策「ウェルネスプラットフォーム」



脳の健康維持アプリ「脳にいいアプリ」

基本情報

| | |
|------------|--|
| 代表地方公共団体 | 東京都八王子市 |
| 代表民間団体 | 株式会社ベスブラ |
| 他の連携団体等 | 公益社団法人八王子市シルバー人材センター、株式会社セブン-イレブン・ジャパン、株式会社イトーヨーカ堂、株式会社セブン & アイ・フードシステムズ、株式会社旭化成ホームズ、パーソルテンプスタッフ株式会社 |
| カテゴリ | 健康増進／高齢者福祉・介護 |
| 事業費 | |
| めざすSDGsゴール | |
| 事業化までの期間 | 2023年4月 |

取組内容



脳にいいアプリ×健康ポイント



健康に資する商品・サービス事業者

| | |
|-------------|--|
| この取組で解決した課題 | 高齢化の進展に伴い、医療・介護コスト増加やケア人材不足、社会・経済の担い手減少など、さまざまな課題の深刻化が懸念されている。そのような中で、持続可能で活力ある社会を維持するには、「①高齢者が自らの健康を守るセルフマネジメント」、「②高齢者の健康づくり・生活支援を行う民間市場の健全な発展」、「③地域を支える力としての高齢者の活躍推進」などが鍵になると言われている。特に①については、自治体でICTや健康ポイント制度を導入するケースも見られるが、費用・自治体側の運営人員の継続的確保や効果測定に課題がある。 |
| 解決に向けた手法 | 高齢者の脳と体の健康維持アプリ「脳にいいアプリ」と「健康ポイント」を組み合わせたICTサービスを、八王子市へ提供している。当サービスと「健康に資する商品・サービスを展開する事業者（上記連携団体）」をつなぐことで、『ウェルネスプラットフォーム』を実現する。仕組みとしては、「当該サービスから得られる健康や興味の商品・サービス」と、各事業者の「店舗・商品・サービス・イベント・雇用等のデータ」をAI技術にてパーソナライズし、リコメンドすることで、高齢者へ健康づくりに役立つ商品やサービス情報を提供する。それにより、例えば「高齢者が歩いて店舗へ行き、脳トレをするとポイントがもらえる。そのポイントで自分の健康に合う商品を購入する」といった行動を促せる。本健康ポイントの原資は事業者側が負担する事で、自治体側が健康ポイントを負担しない持続可能な健康施策を実現する。 |

取組詳細

| | |
|----------------|--|
| 事業推進上の各団体の役割分担 | 「(株)セブン-イレブン・ジャパン、(株)セブン&アイ・フードシステムズ」は、個人に向けた商品の提案、店舗での脳トレ実施、クーポンの提供。「(株)イトーヨーカ堂」は高齢者にむけたイベントの開催。「(株)旭化成ホームズ」は、地域高齢者の住まいに関する情報などを提供。「(公)八王子市シルバー人材センター、パーソルテンプスタッフ(株)」は、高齢者の活躍の場、就労推進を目的とした情報を提供。 |
| 地域関係者との連携方法 | 自治体側のメリットとしては、当健康アプリによる市民の健康セルフマネジメントが進み、健康ポイントによる地域商業活性化が実現できる。これらのデータを蓄積し分析することにより、行政コストを最低限に抑えながら市民の健康、経済の活性化、地域の担い手増を実現しつつ、京都大学との監修を受けEBPMへのデータ活用を狙う。 |
| 資金調達方法 | 自社資金 |
| 資金調達方法の補足 | |
| 事業推進上の課題・工夫 | 本施策は実証実験中であり、「2022年11月～2023年1月」の期間において、各連携団体と一緒に東京都八王子市にて実施している。そのため、本プラットフォーム上の課題はこれから出てくる事を想定しているが、ここに辿り着くまでに共通の認識を合わせる事を意識した活動を実施してきた。 そもそも、自治体様や関係各社との目的意識の合意が得られないと今後の方向性が定まらないため、まずは、本プロジェクトの合意形成を図るため、自治体の課題を勉強する「ワークショップ」を連携団体と一緒に実施し、その後、各連携団体が役割を持ちながら、その課題を解決できる事を探る「ワーキンググループ」を形成し、議論を深めていった。それらの活動を1年近く実施した結果、各社内・プロジェクト内でも意思統一が行え、自治体での実証実験にまでこぎつける事ができた。 自治体の課題解決と各連携団体のメリットをしっかりと繋げることで、ようやく官民が連携できるため、そこにはかなりの時間をかけた事が大きな工夫の一つとして挙げられる。 |

担当者のコメント

超高齢社会の課題は非常に幅広く、もはや自治体だけではどうにもならない所まで来ているとワークショップで実感しました。しかし、様々な事業者が力を合わせる事により、高齢者の健康や、悩みや、活躍の場が広がる可能性が非常に高くなることに、光明が見えた思いました。実際に、本件に関して、多くの自治体から要望・問い合わせを受けているため、これからの日本、および世界に必要な仕組みの一つであると感じています。高齢化はまだ難しい問題が多く存在しますので、その一つ一つをウェルネスプラットフォームのような形でも、別の形でも、我々事業者が向き合っていく事が必要だと感じています。



株式会社ハスプラ 代表取締役 遠山陽介

優良事例応募項目

| | |
|----------------|--|
| 取組のポイント（3つの視点） | <p>①地方創生SDGsの視点 ・本取組みは、地域住民、事業者、自治体の三者ともにメリットを享受できる持続可能なプラットフォームである。</p> <p>②ステークホルダーとの連携 ・本取組みは、当社と八王子市、公益社団法人八王子市シルバー人材センター、旭化成ホームズ株式会社、株式会社イトーヨーカ堂、株式会社セブン-イレブン・ジャパン、株式会社セブン&アイ・フードシステムズ、パーソルテンプスタッフ株式会社、京都大学経営管理大学院ブレインヘルスケアビジネスエコシステム寄附講座（オブザーバー参加）と連携の上、実施する。事業者においては、地域住民への健康貢献や、高齢者に商品・サービスを知ってもらうタッチポイントにすることが可能。自社製品に興味を示したユーザの健康および行動データが収集でき、高齢者に対するマーケティングが可能となる。</p> <p>③モデル性・波及性 ・本取組みは、既にICTサービス（脳にいいアプリ×健康ポイント）が運営されている八王子市をフィールドとし、複数の大手企業と共同研究としてテスト・導入・実証・評価を進めていく。検証は、健康促進および経済活性化への効果測定の検証をするともに、各社への売上貢献情報を収集し、持続可能な事業モデルになり得るかを評価する。健康活動や社会参加におけるデータを適切に蓄積し、自治体と連携しEBPMへの利用可能性の検討準備を実施するものである。</p> |
|----------------|--|